

まちの ニュース

白雪を踏みしめて祈りの道程・平笠裸参り



八坂神社を目指して厳かに歩を進める一行

女性の荒行として名高い、市無形民俗文化財の平笠裸参りは1月8日、女性16人を含み27人が参加して行われました。

一面の雪景色に粉雪交じりの寒風が吹き付ける中、験竿（けんぼ）を掲げ、白装束に身を包んだ参加者は、午前9時に平笠地区の宮田神社を出発。地域の神社を巡り拝礼をする途中で、民家や商店などに立ち寄り、



無病息災などを祈願して拝礼を行います

鈴の音を響かせながら無病息災、五穀豊穰などの祈願を行います。

沿道で市民が見守る中、白雪の降り積もった道を一歩一歩踏みしめながら、一行は大更地区の八坂神社を目指して約10^分の道のりを5時間かけて練り歩きました。

平笠裸参りは、1732(享保16)年の岩手山の噴火を恐れた住民が、山の神を鎮めるために始めたと伝えられています。その後、太平洋戦争に出征した夫や家族などの無事を願って地域の女性が受け継いだことから、全国でも珍しい女性が中心の裸参りとなりました。

夢は金メダル！五輪を目指して大ジャンプ

「目指せオリンピックピック」をスローガンに掲げ、第1回北東北学童ジャンプ大会は1月6日、田山シャンツェで開かれました。

岩手、秋田、青森の小学生17人が出場。日ごろ鍛えたジャンプの冴えを発揮しました。

開会式で八幡優作くん(田山小6年)が選手宣誓を行い、いよいよ競技開始です。

競技はスモールヒル(K点

20^分で実施。選手はジャンプ台を滑走して元気良くジャンプを決め、見事なV字飛行を披露しました。

市から出場した選手の主な成績は次のとおりです。(敬称略)

- ▽低学年の部②工藤颯悠(田山小3年)③斉藤豊(田山小3年)
- ▽高学年の部②小林陵侖(柏台小5年)



↑いわてスーパークッズに選ばれた小林陵侖くんの大ジャンプ

←果敢な滑り出しを見せる八幡優作くん

お年寄りの暮らしを守るスノーバスターズ

一人暮らしのお年寄りなどの家の周りを除雪する安代地区スノーバスターズは1月6日、安代福祉センターで出発式を行い、今シーズンの活動を開始しました。

当日は、安代中学校の生徒など約20人の隊員が参加。出発式で田村正彦市長は「雪かきだけでなく、皆さんのあたたかい手を差し伸べてください」と激励しました。

隊員は、毎週日曜日に対象となる18戸を訪問します。



安全な作業に向けて、気を引き締める隊員たち

食を通じて地域理解を深めるそば打ち体験



破れないよう、慎重に生地をのばします

地域の食について学ぼうと県立平館高校(受川彰校長、生徒323人)は1月21日、郷土料理講習を行いました。

参加したのは家政科学科3年の生徒25人。地元産のそば粉を使い、そば打ちに挑戦しました。

これは、同校が進める地域理解学習の一環として行われたものです。生徒たちのほとんどは初めての経験でしたが、とてもおいしいそばが出来上がりました。

交通安全・地域安全を目指して合同初点検

隊員の規律を高めようと市交通指導隊(杣沢徳宣隊長)・防犯隊(遠藤義明隊長)合同初点検は1月5日、西根地区体育館で実施されました。

交通指導隊員28人、防犯隊員24人が出勤。関係者などが見守る中で隊員の観閲が行われ、杣沢交通指導隊長の号令のもとで、手帳や警笛などを点検しました。

隊員たちは、心も新たに交通安全や地域安全の推進を誓いました。



田村正彦市長の観閲を受ける隊員



市民の立場から新庁舎の基本構想について議論

第4回八幡平市庁舎建設検討委員会は1月18日、松尾総合支所で開催されました。

委員18人が出席し、市庁舎建設基本構想について、市民の目線から議論しました。

会議終了後、古沢真作委員長(県立大学副学長)から田村正彦市長に検討会で出された提言などを取りまとめた報告書が手渡されました。

基本構想の詳しい内容は、3月以降の広報紙上で皆さんにお知らせします。

新庁舎の在り方を市民の目線から考え提言

幸せの願いを込めてミズキ団子を贈ります

平館公民館は1月11日、小正月行事のミズキ団子作りを行いました。

平館保育所の園児と平館公民館講座「なんでも道場」に参加する児童、老人クラブの会員など約70人が参加。みんなで協力してもちつきを行い、ミズキの枝に五穀豊穡や商売繁盛、無病息災などの願いを込めながら飾り付けをします。完成したミズキ団子は、子どもたちが地域の公共施設などに贈りました。



地域の公共施設などにミズキ団子を贈りました

農業と農村の振興に活躍する指導士に認定



田村正彦市長(左)に報告をする田村さん(中)と立花さん(右)

農業や農村の振興に意欲的に取り組む優れた農業者を認定する岩手県農業農村指導士の認定式は1月23日、ホテル紫苑で行われ、市内から新たに2人が認定されました。

今回認定されたのは、農業農村指導士に田村亨さん(松尾)、青年農業士に立花賢生さん(細野)です。

これまでに市内から農業農村指導士に19人、青年農業士に5人が認定され、農業の発展に尽力しています。

第15回朗読を楽しむ会は1月26日、親子連れなど約30人が参加して、市立図書館で開かれました。

八幡平市朗読ボランティアほおずきの会の会員が詩や絵本を朗読。このほか、第10回江間童子賞で入選した西根地区の児童生徒を招き、受賞作品を朗読しました。

参加した児童は「たくさんの人に詩を伝えることができうれしかった」と笑顔を見せていました。

少年少女の感性を豊かに育てる朗読会開催



たくさんの観客の前で詩を朗読しました



はさみと呼ばれるさおを手に練り歩きました

松尾寄木地区に伝わる小正月の伝統行事、寄木天照皇大神宮の裸参りは1月16日、同地区で行われました。女性や子どもを含む19人が白装束を身にまとい、松尾地区公民館北寄木分館を出発。鈴の音を響かせながら、家内安全や無病息災を祈願しました。

保存会では、伝統を継承しようとして、南寄木、新田、北寄木の3分館を持ち回りでの出発点にしています。

無病息災を願い寄木天照皇大神宮の裸参り

ミュージカルなどで学びの大切さを再認識

平成19年度八幡平市生涯学習推進大会「学びのひろば」は1月27日、西根地区市民センターで行いました。

これは、防衛施設周辺整備協会助成金を受けて実施したものです。市民約300人が来場し、体験学習や市民の作

品展示が人気を集めました。市内の児童生徒で昨年秋に結成された劇団ゆう「ゆり組」が、ミュージカル「マンダの木物語」を元氣いっぱい披露。ラジオ番組などでおなじみの落語家、笑福亭学光さんが「笑って笑ってお元氣に ふれあいの大切さ」と題して講演し、会場を沸かせました。



↑ミュージカル「マンダの木物語」を披露する劇団ゆう「ゆり組」の皆さん

←笑福亭学光さんの講演は、これまでの経験談や落語などを交えながら会場を笑顔で包みました

南国の太陽を浴びて輝く笑顔と友情の翼



少年の翼に参加した皆さん(石垣島・竹富小中学校前)

最終日は、ひめゆりの塔など戦地となった沖縄の歴史をたどり、平和への決意を新たにしました。

友好都市の名護市では、名護市「少年の船」団員とともに市内の名所を巡りながら友情をはぐくみました。

友好都市の名護市では、名護市「少年の船」団員とともに市内の名所を巡りながら友情をはぐくみました。

翌日から、いよいよ沖縄での研修が始まります。常夏の石垣島では、竹富小中学校の子どもたちと互いの文化を紹介する交流会、かけはしの水田見学などを行いました。

沖縄の良いところを学びたい」など、研修に向けてそれぞれ決意を表明しました。

市内の小中学生と高校生が沖縄を訪問し、異文化交流を深める平成19年度八幡平市「少年の翼」は1月9日から11日まで、友好都市の名護市などで行われました。市内の小中学生17人と平館高校の生徒2人が参加しました。参加者は、10月から4回にわたって事前研修を行い、市や沖縄のことを勉強し、理解を深めました。

出発前日の8日には、市友好都市交流促進センターで結団式を開催。式で団員たちは、「市の良いところを紹介し、



結団式では、それぞれが決意を表明しました